

1. 調査目的

松江市は、市民一人ひとりが性別にかかわらず、互いの人権を尊重し合い、個性と能力を十分に発揮できる「男女共同参画社会」の実現をめざし、平成13年に「松江市男女共同参画計画」を定めた。この計画策定以降、男女共同参画に関する具体的な取り組みを適時推し進めるため、おおむね5年を目途に新たな計画を策定してきた。令和8年度には「第4次松江市男女共同参画計画」を策定する予定としており、男女共同参画に関する市民意識の現状を把握し、計画の方向性、目標値を定めるにあたっての基礎資料とするために本調査を実施する。

2. 調査対象

松江市内在住の満18歳以上の市民から層化二段無作為抽出により2,000人を抽出

3. 調査期間

令和7年7月25日(金)～令和7年8月31日(日)

4. 調査の方法

配布：郵送、回収：郵送又はインターネット回答

5. 回収結果

回収数：724件（総回収率36.2%）

6. 調査概要

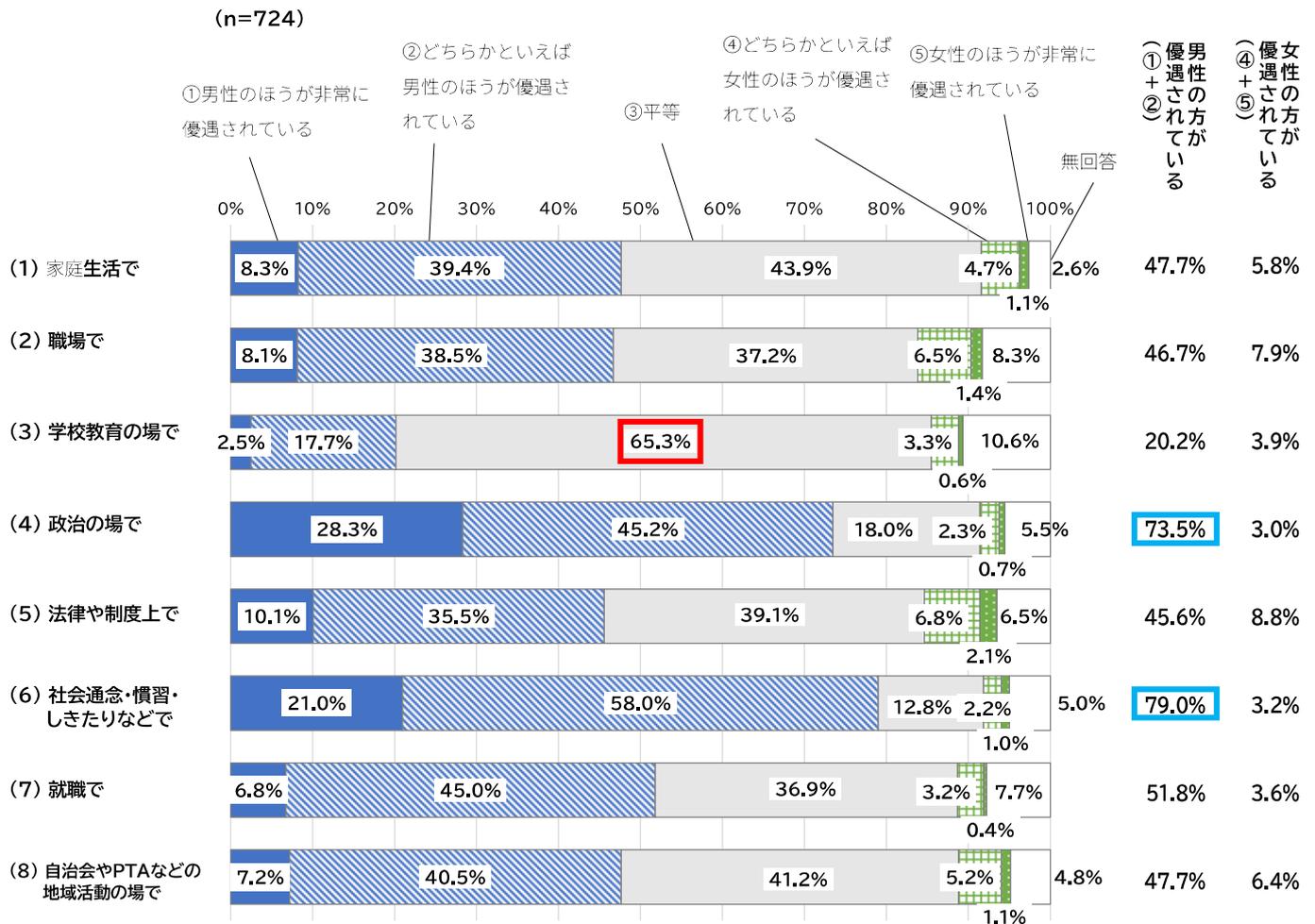
- 1 男女の地位の平等感について
- 2 性別役割分担意識について
- 3 女性の社会参画について
- 4 女性と仕事について
- 5 仕事、生活、地域、個人の生活について
- 6 家庭の中での役割分担について
- 7 今後男性が家事・子育て・介護等に参加していくために必要なこと
- 8 男女の人権について
- 9 DV等に関する相談窓口の認知度について
- 10 男女共同参画に関する用語の認知度について
- 11 松江市への要望について

7. 報告書の見方

- (1) nは回答者数を表す。
- (2) 回答は少数点第2位を四捨五入したため、構成比の合計が100%にはならない場合がある。また、選択肢の合計構成比を示している設問では、四捨五入前の値を足しているため、グラフ内の構成比の合計と異なる場合がある。
- (3) 「全体」には無回答等を含むため、男女別・年代別の合計とは一致しない場合がある。

1 男女地位の平等感について

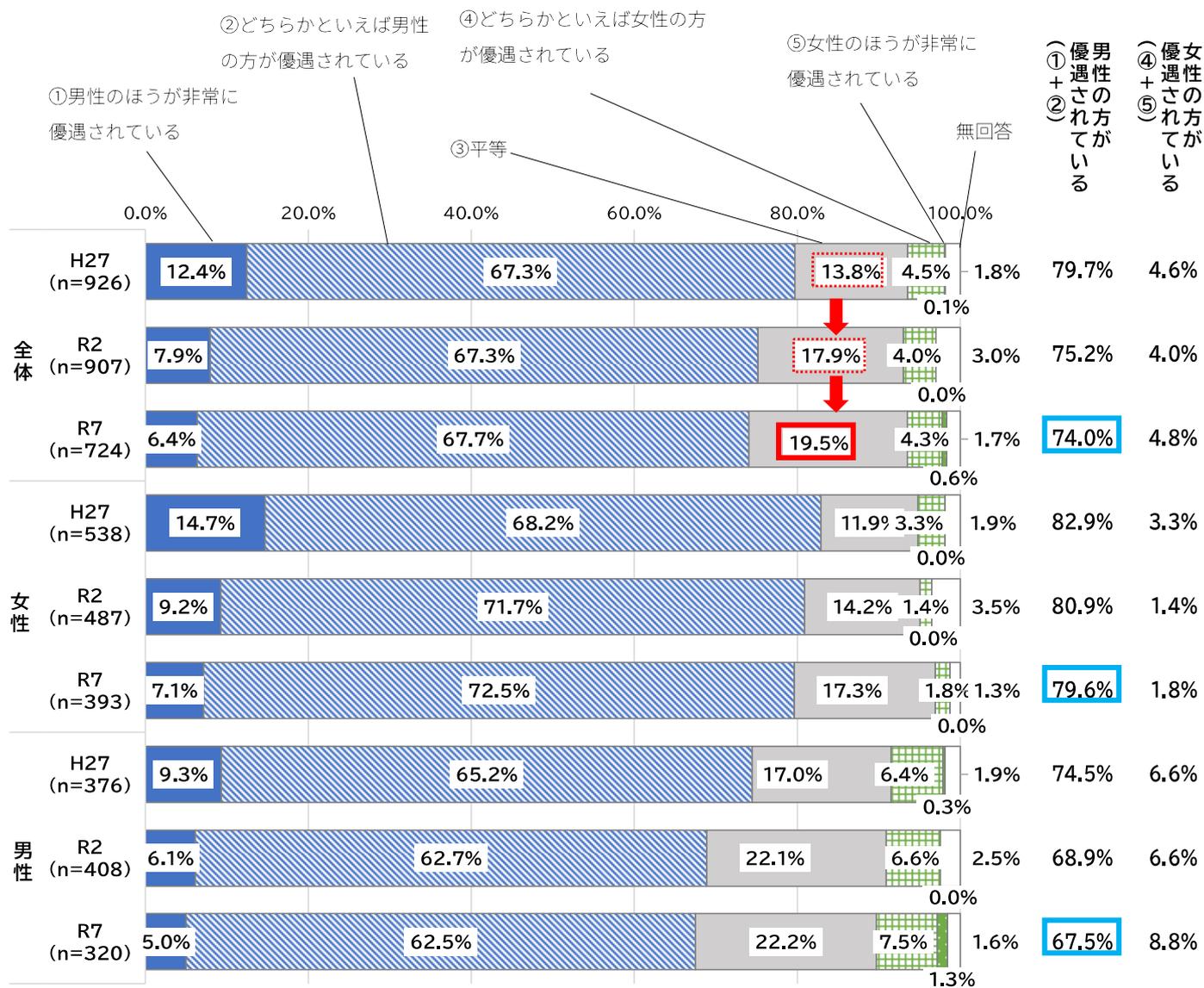
問1 各分野における男女の地位の平等感



「平等」と回答した割合が最も高い分野は「(3)学校教育の場」で 65.3%となっている。また、「男性優遇(計)」が最も高いのは「(6)社会通念・慣習・しきたりなど」(79.0%)で、次いで「(4)政治の場」(73.5%)となっている。「(3)学校教育の場」以外の分野では「男性優遇(計)」が「平等」よりも高くなっている。

問1-2

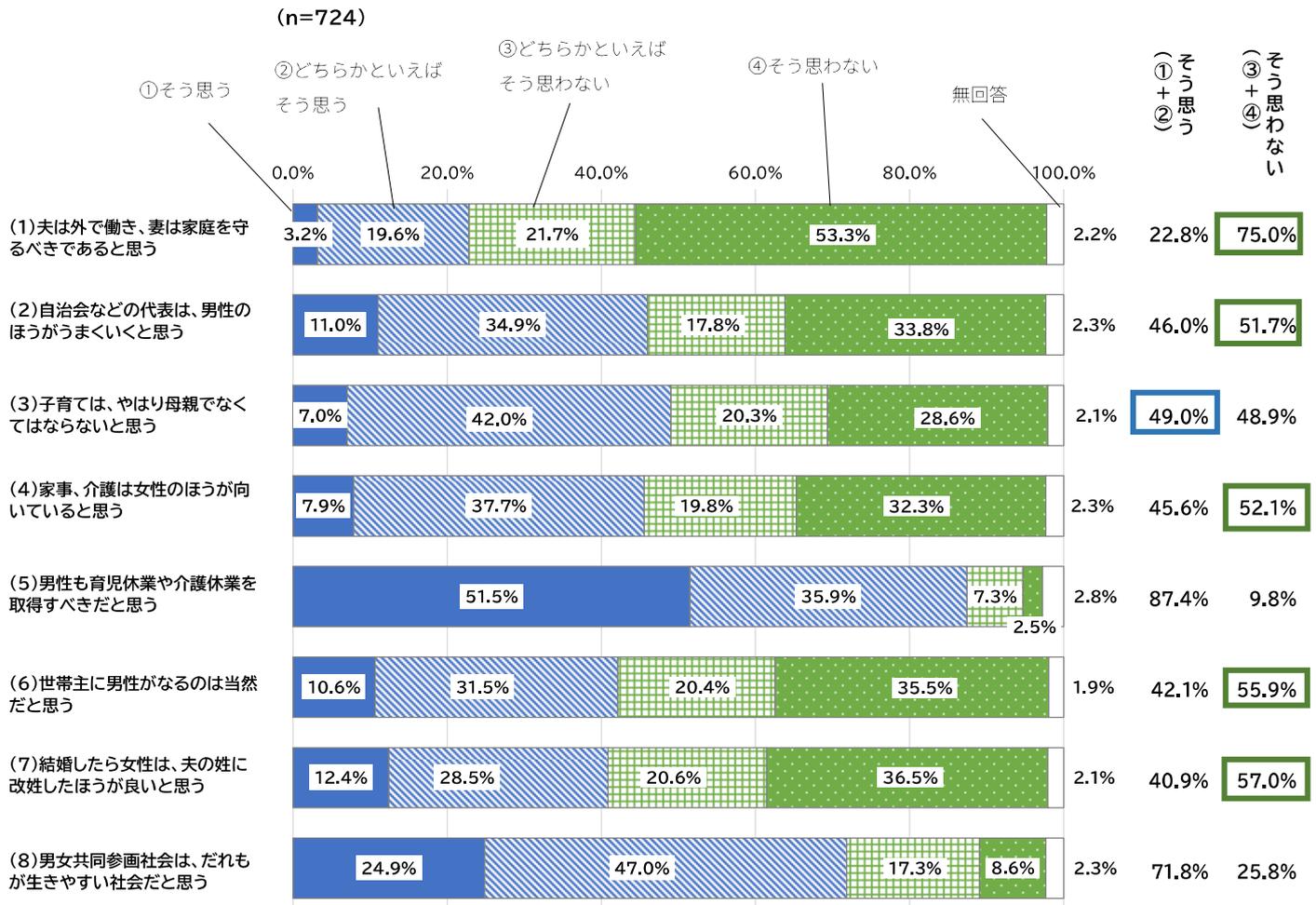
社会全体での男女地位の平等感



「平等」と回答した割合は19.5%で、H27 松江市調査(13.8%)、R2 松江市調査(17.9%)と比較すると増加傾向にある。一方、「男性優遇(計)」と回答した割合は74.0%で、過去の調査より減少しているが、依然として7割を超えている。性別で比較すると、女性が「男性優遇(計)」と回答した割合は79.6%で、男性(67.5%)を12.1ポイント上回っている。

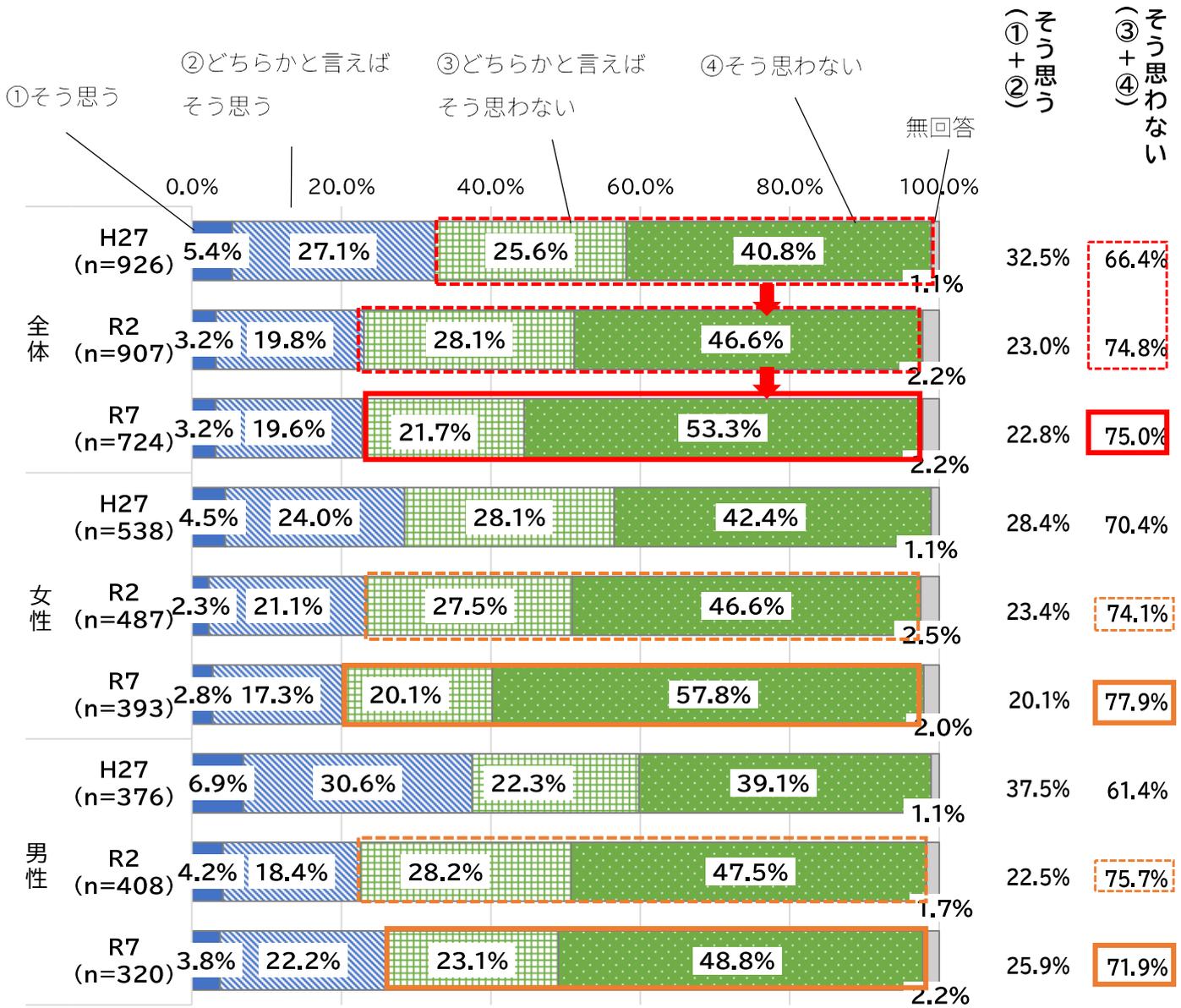
2 性別役割分担意識について

問2 性別役割分担等に関する意識



「(1)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」、「(2)自治会などの代表は、男性の方がうまくいく」、「(4)家事、介護は女性の方が向いている」、「(6)世帯主に男性になるのは当然だ」、「(7)結婚したら女性は、夫の姓に改姓した方が良い」については、否定的な意見が多く、「(3)子育ては、やはり母親でなくてはならない」については肯定的な意見が多かった。

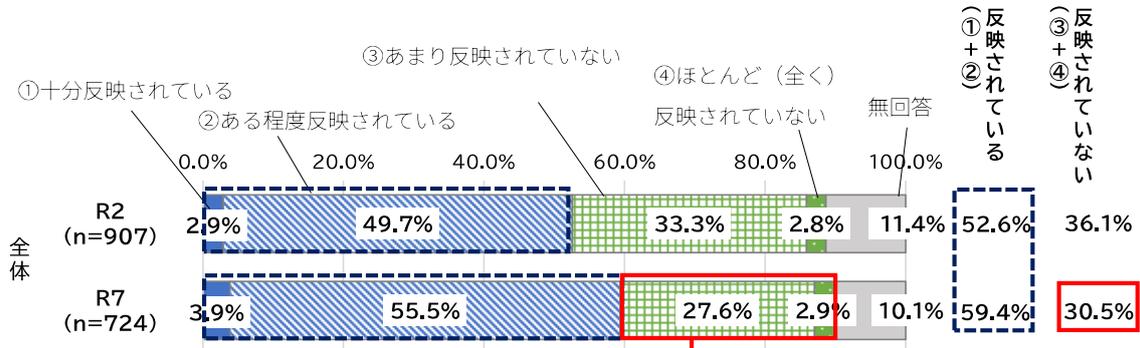
(1)夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである



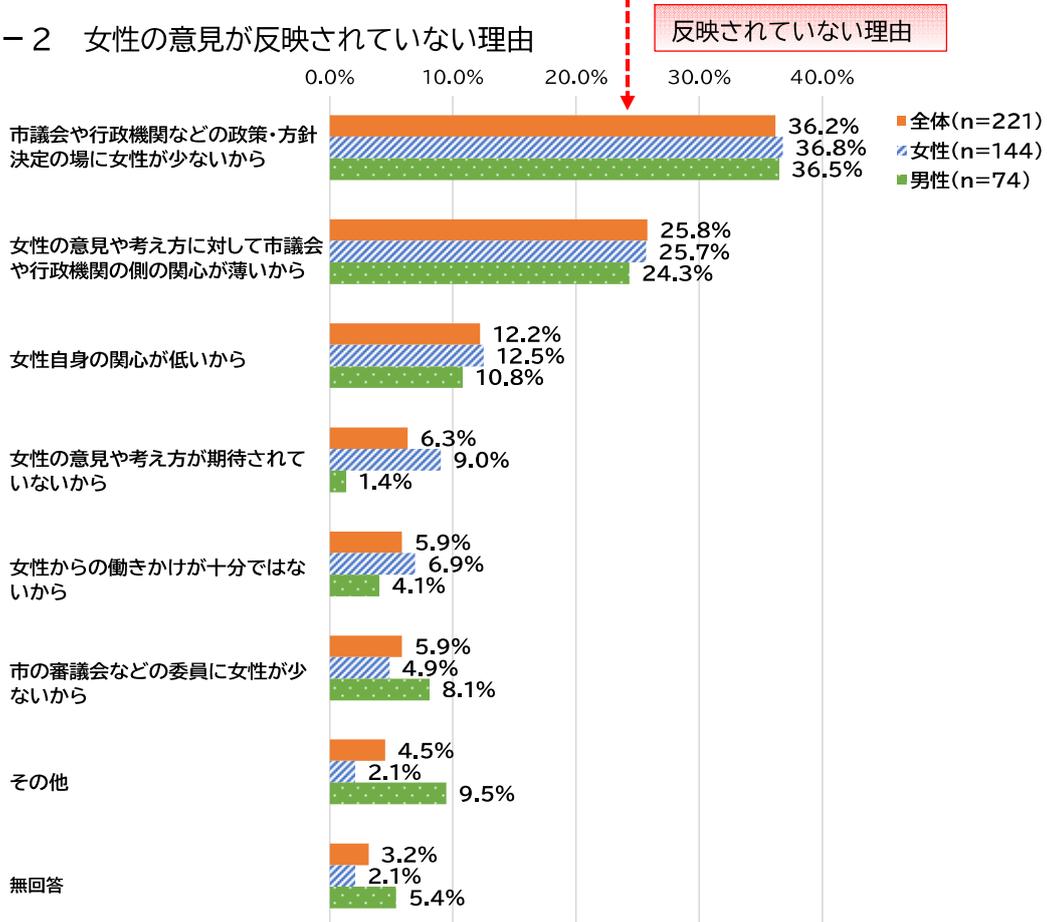
「そう思わない(計)」と回答した割合は 75.0%で、H27 松江市調査(66.4%)、R2 松江市調査(74.8%)と比較すると増加している。「そう思わない(計)」とした回答について、R2 松江市調査では女性 74.1%、男性 75.7%と男性の回答割合が高かったが、本調査では、女性 77.9%、男性 71.9%と女性の方が回答割合が高くなっている。

3 女性の社会参画について

問3 市の政策について女性の意見の反映度



問3-2 女性の意見が反映されていない理由



【問3】

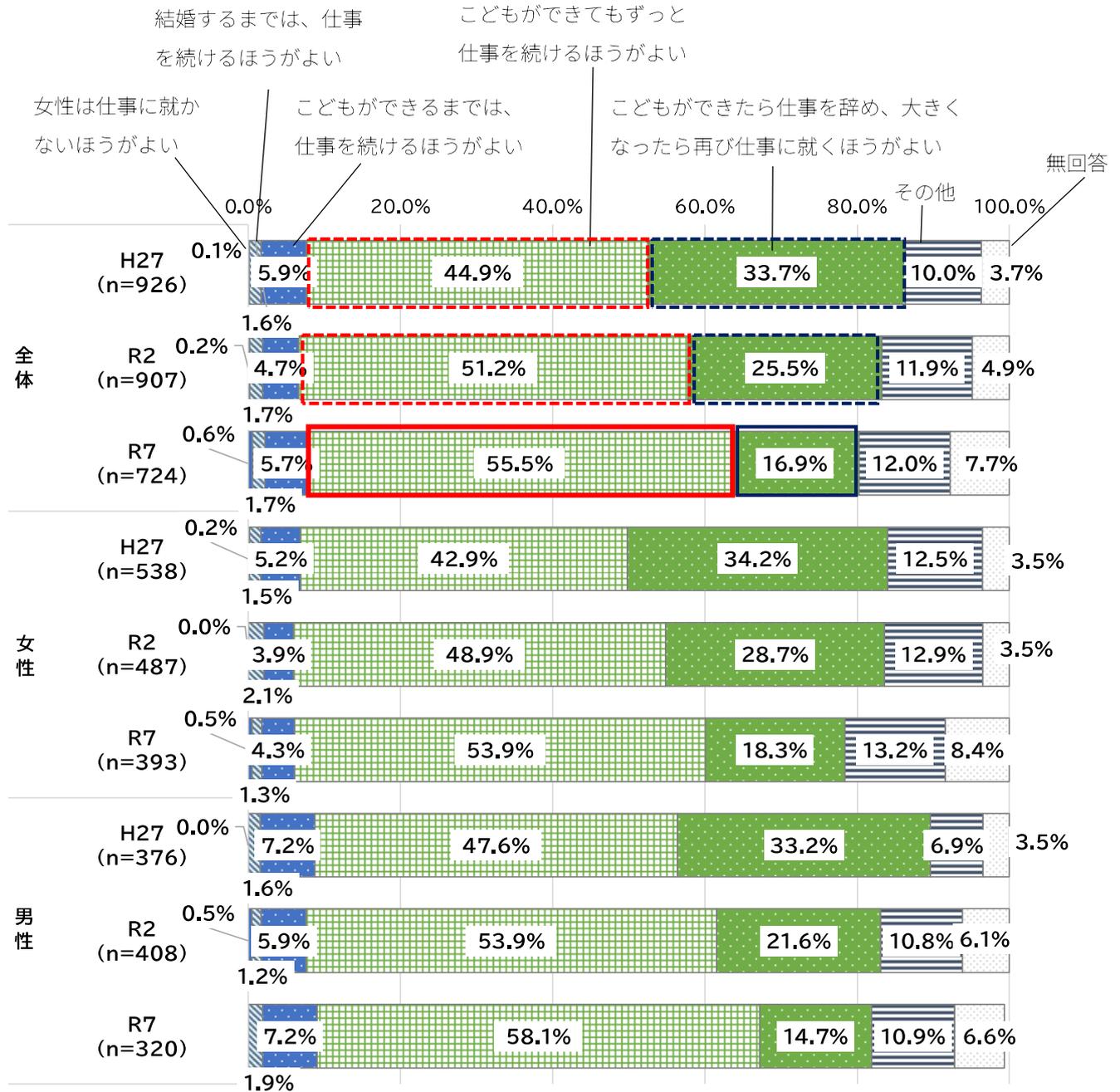
「反映されている(計)」と回答した割合は59.4%と半数以上の方が女性の意見が反映されていると感じている。一方で、「反映されていない(計)」と回答した割合は30.5%と3割程度の方が女性の意見が反映されていないと感じている。

【問3-2】

「政策・方針決定の場に女性が少ない」(36.2%)が最も高く、次いで「女性の意見や考え方に対して市議会や行政機関の関心が薄い」(25.8%)の順になっている。

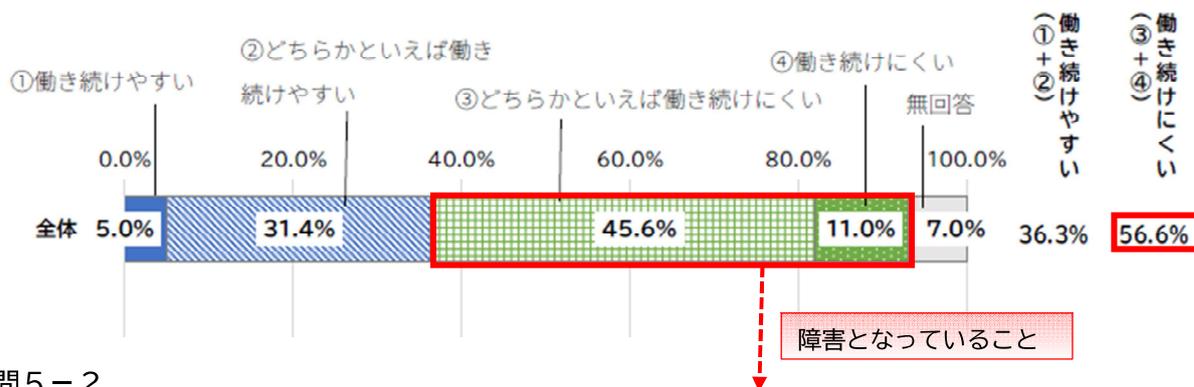
4 女性と仕事について

問4 一般的に女性が働き続ける状況について



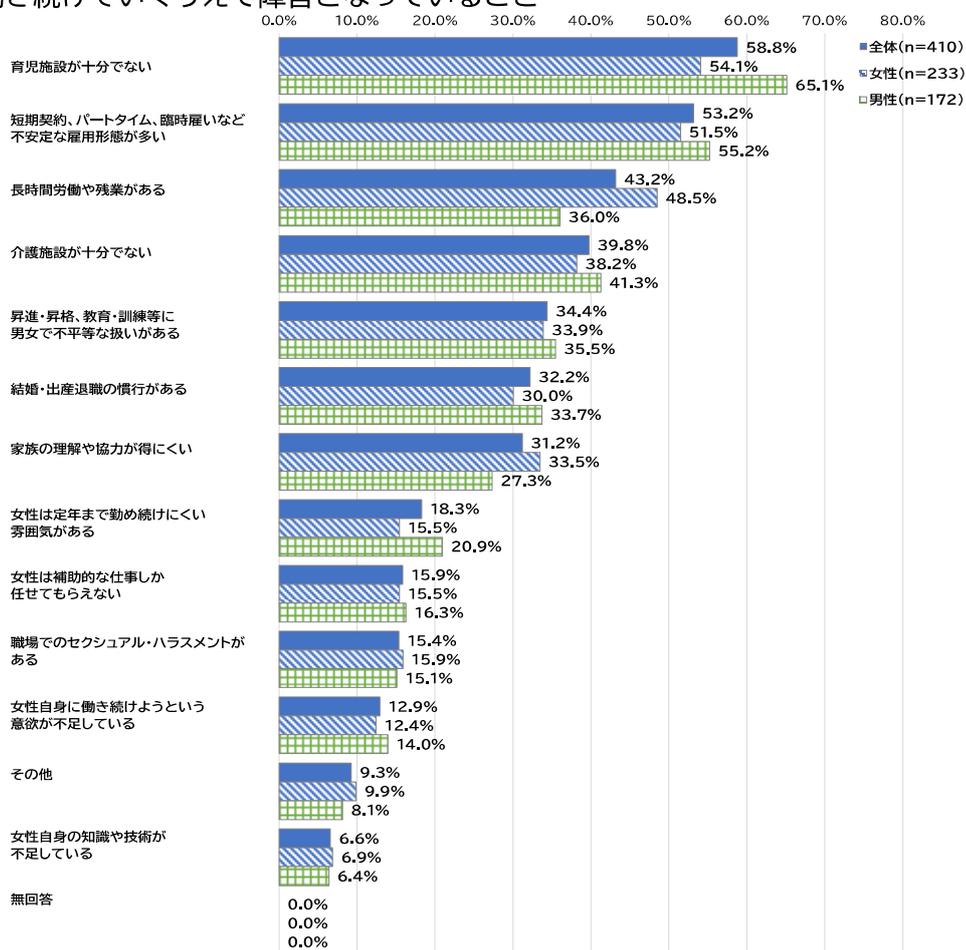
「子どもができてもずっと仕事を続けるほうがよい(就労継続型)」(55.5%)が半数以上を占め、過去の調査と比較して増加傾向にある。一方、「子どもが大きくなったら再び仕事に就くほうがよい(中断・再就労型)」(16.9%)は過去の調査と比較して減少傾向にある。

問5 一般的に女性が働き続ける状況について



問5-2

女性が働き続けていくうえで障害となっていること



【問5】

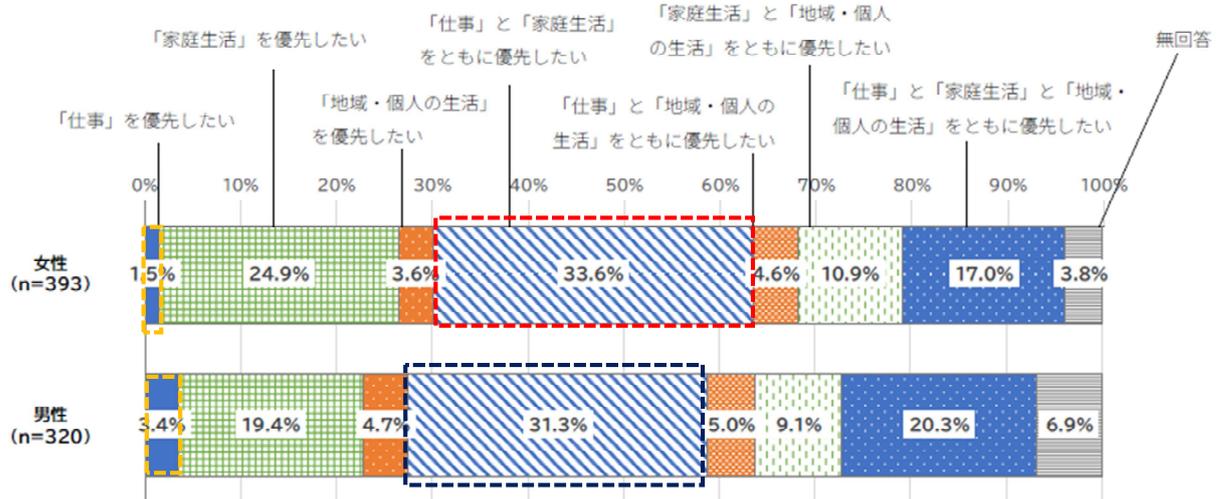
「働き続けにくい(計)」と回答した割合は 56.6%と 5 割以上の方が働き続けにくい状況であると感じている。

【問5-2】

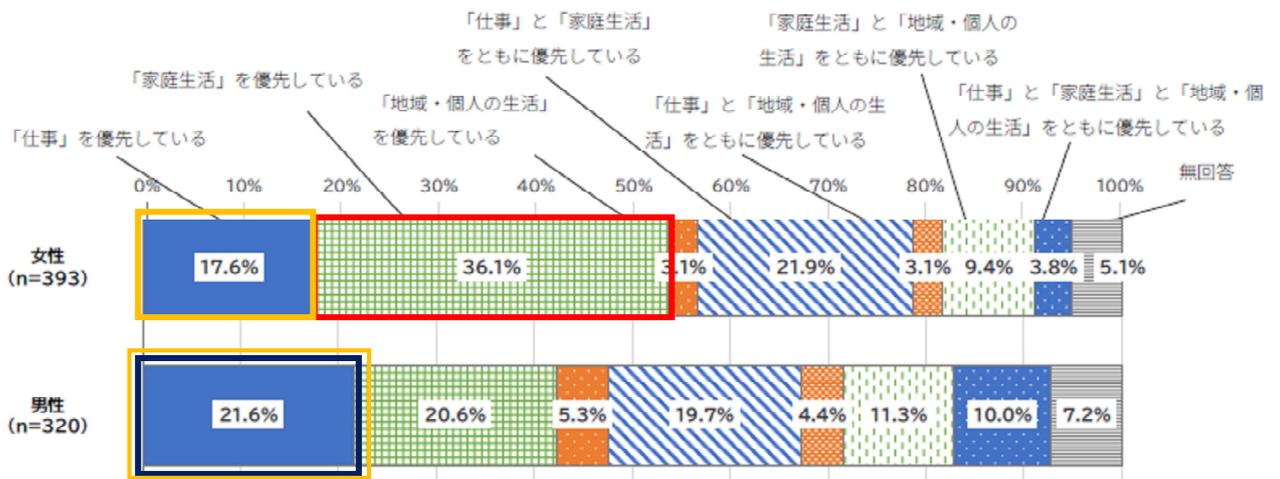
「育児施設が十分でない」(58.8%)が最も高く、「不安定な雇用形態が多い」(53.2%)、「長時間労働や残業がある」(43.2%)の順となっている。

5 「仕事、生活、地域、個人の生活」のバランス

問6 (1) 「仕事と家庭生活と地域・個人の生活のバランス」(希望)



問6 (2) 「仕事と家庭生活と地域・個人の生活のバランス」(現実)

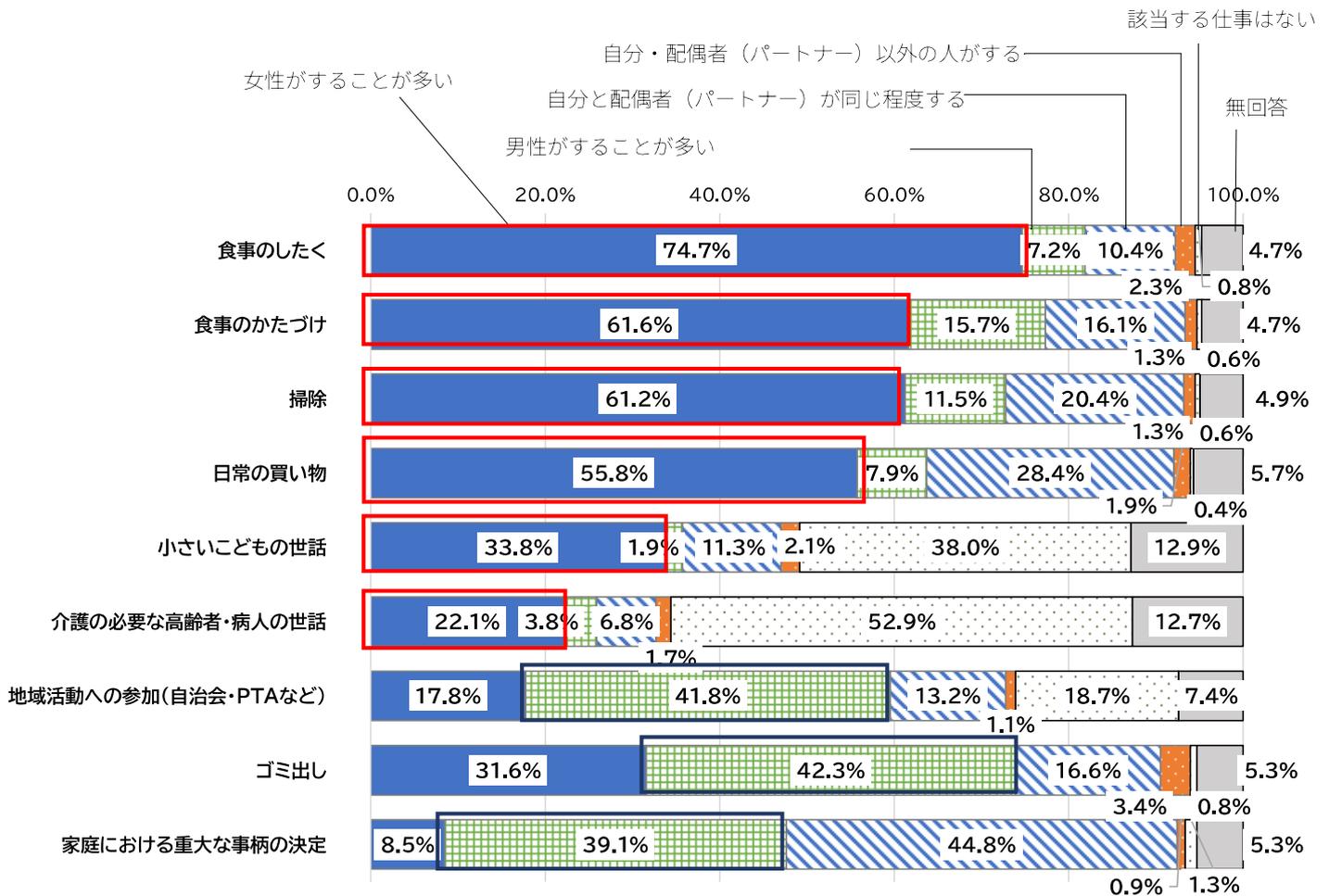


希望(問6(1)のグラフ)では、女性、男性ともに「仕事と家庭生活を優先したい」が最も高い割合(女性 33.6%、男性 31.3%)となっている。一方、現実(問6(2)のグラフ)は、女性は「家庭生活を優先している」(36.1%)、男性は「仕事を優先している」(21.6%)が最も高い割合となっている。

また、希望(問6(1)のグラフ)では、女性も男性も「仕事を優先したい」が最も低い割合(女性 1.5%、男性 3.4%)となっているが、現実(問6(2)のグラフ)では「仕事を優先している」傾向(女性 17.6%、男性 21.6%)がみられる。

6 家庭の中での役割分担について

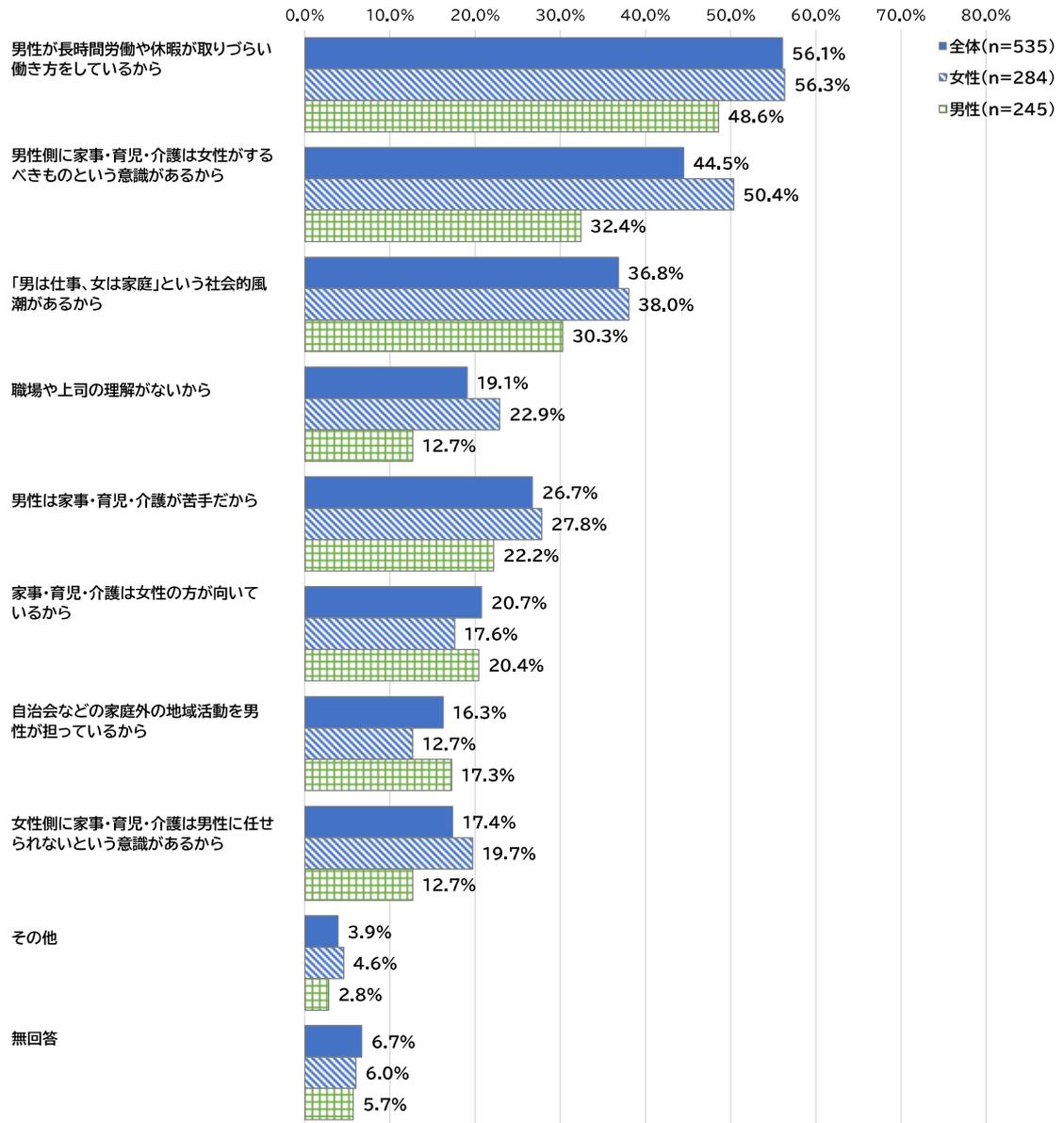
問7 家庭内での役割分担



女性が「自分がすることが多い」と回答した割合が高い項目は、「食事のしたく」、「食事の片付け」、「掃除」、「日常の買い物」、「小さいこどもの世話」、「介護の必要な高齢者・病人の世話」となっている。男性が「自分がすることが多い」と回答した割合が高い項目は、「ゴミ出し」、「地域活動への参加」、「家庭における重大な事柄の決定」となっている。

7 今後男性が家事・子育て・介護等に参加していくために必要なことについて

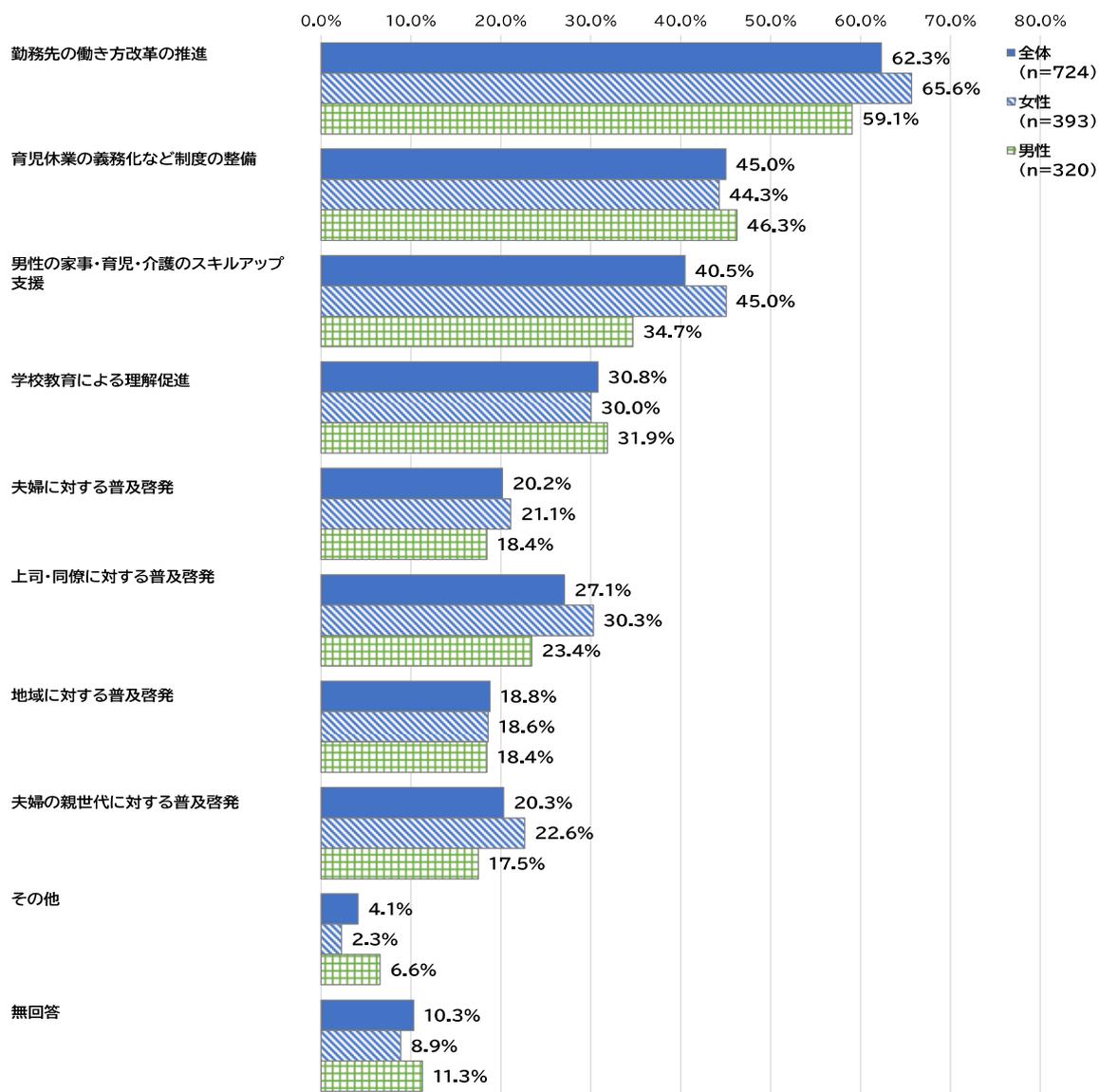
問8 男性の家事・育児・介護等の時間が短い理由（複数回答可）



【問8】

「男性が長時間労働や休暇が取りづらい働き方をしている」(56.1%)が最も割合が高く、次いで「男性側に家事・育児・介護は女性がすべきものという意識がある」(44.5%)となっている。

問9 今後男性が家事・育児・介護等に参画していくために行政が取り組むべきこと
(複数回答可)

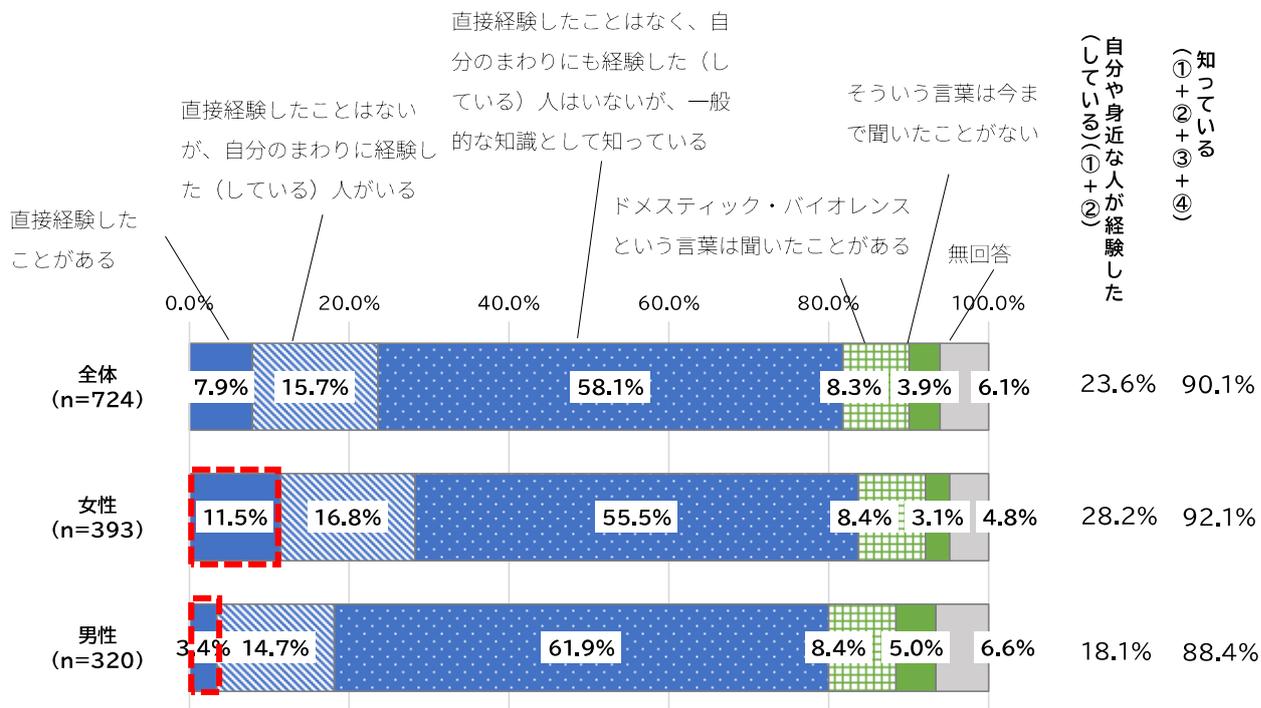


【問9】

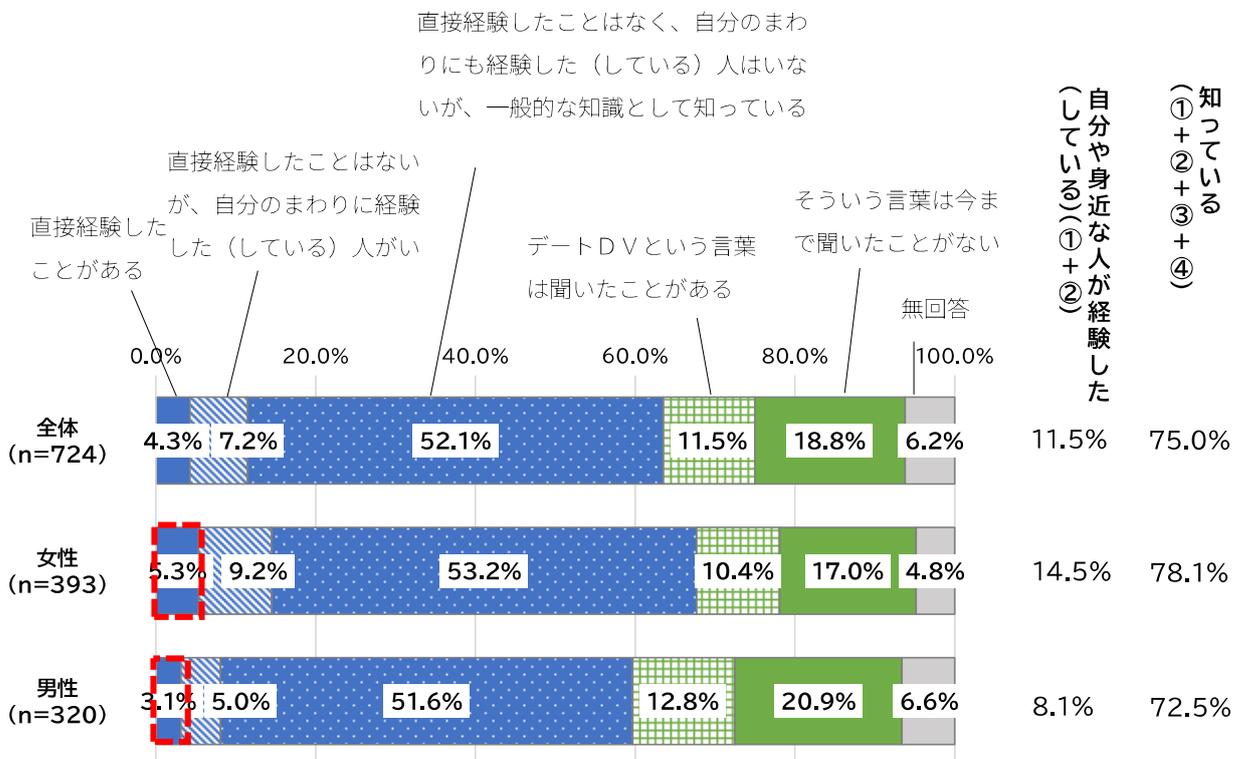
「勤務先の働き方改革の推進」(62.3%)が最も割合が高く、次いで「育児休業の義務化など制度の整備」(45.0%)、「男性の家事・育児・介護のスキルアップ支援」(40.5%)の順となっている。

8 男女の人権について

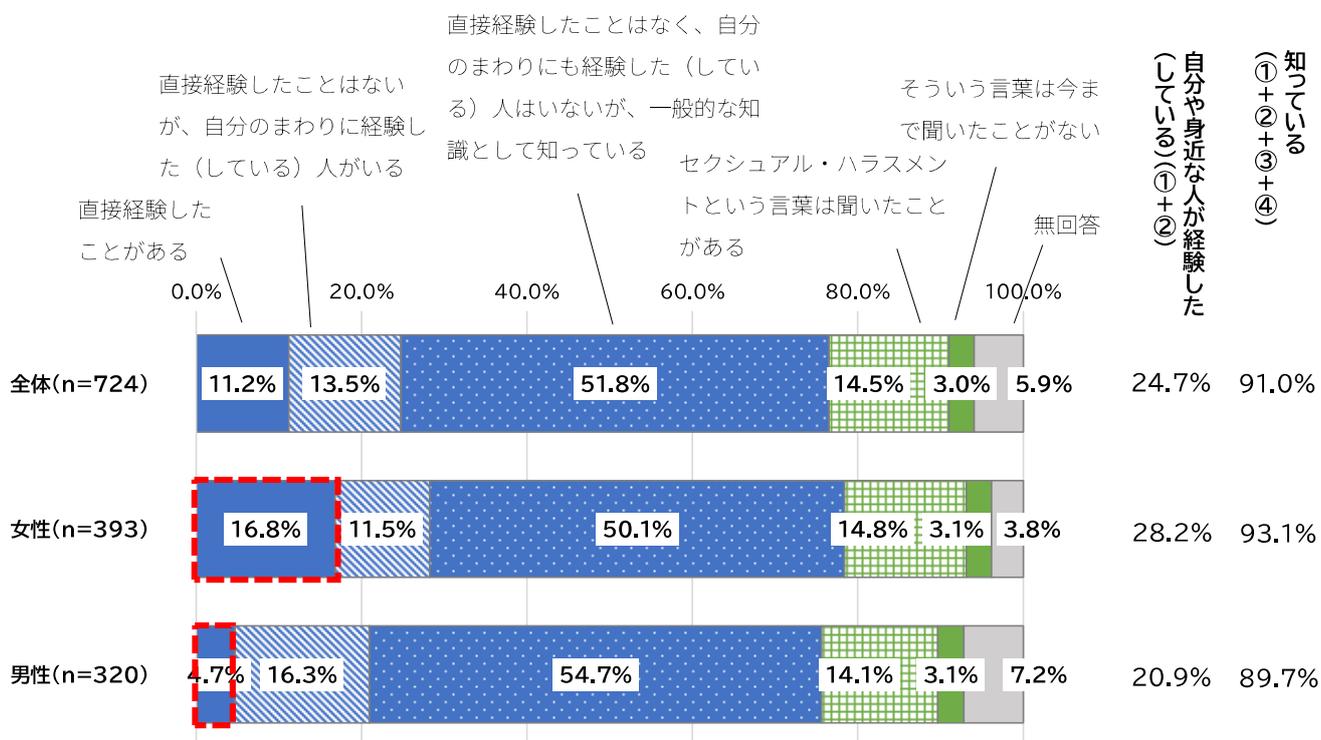
問10 ドメスティック・バイオレンス(DV)について



問11 デートDVについて



問13 セクシュアル・ハラスメントについて



【問10】

DVについて「直接経験したことがある」と回答した割合は、女性(11.5%)が男性(3.4%)の3倍以上となっている

【問11】

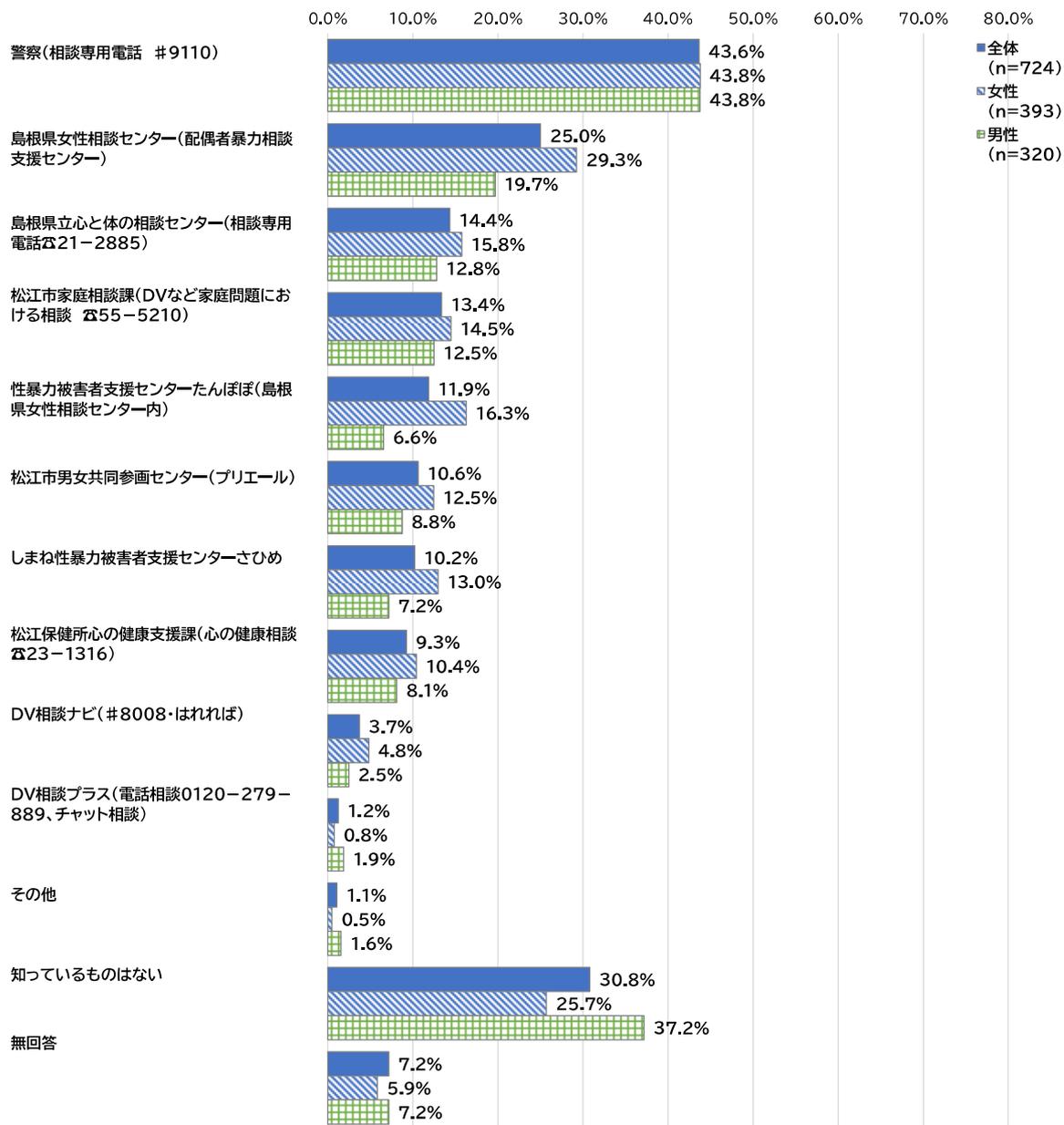
デートDVについて「直接経験したことがある」と回答した割合は、女性(5.3%)が男性(3.1%)を上回っている。

【問13】

セクシュアル・ハラスメントについて「直接経験したことがある」と回答した割合は、女性(16.8%)が男性(4.7%)の3倍以上となっている。

9 DV等に関する相談窓口について

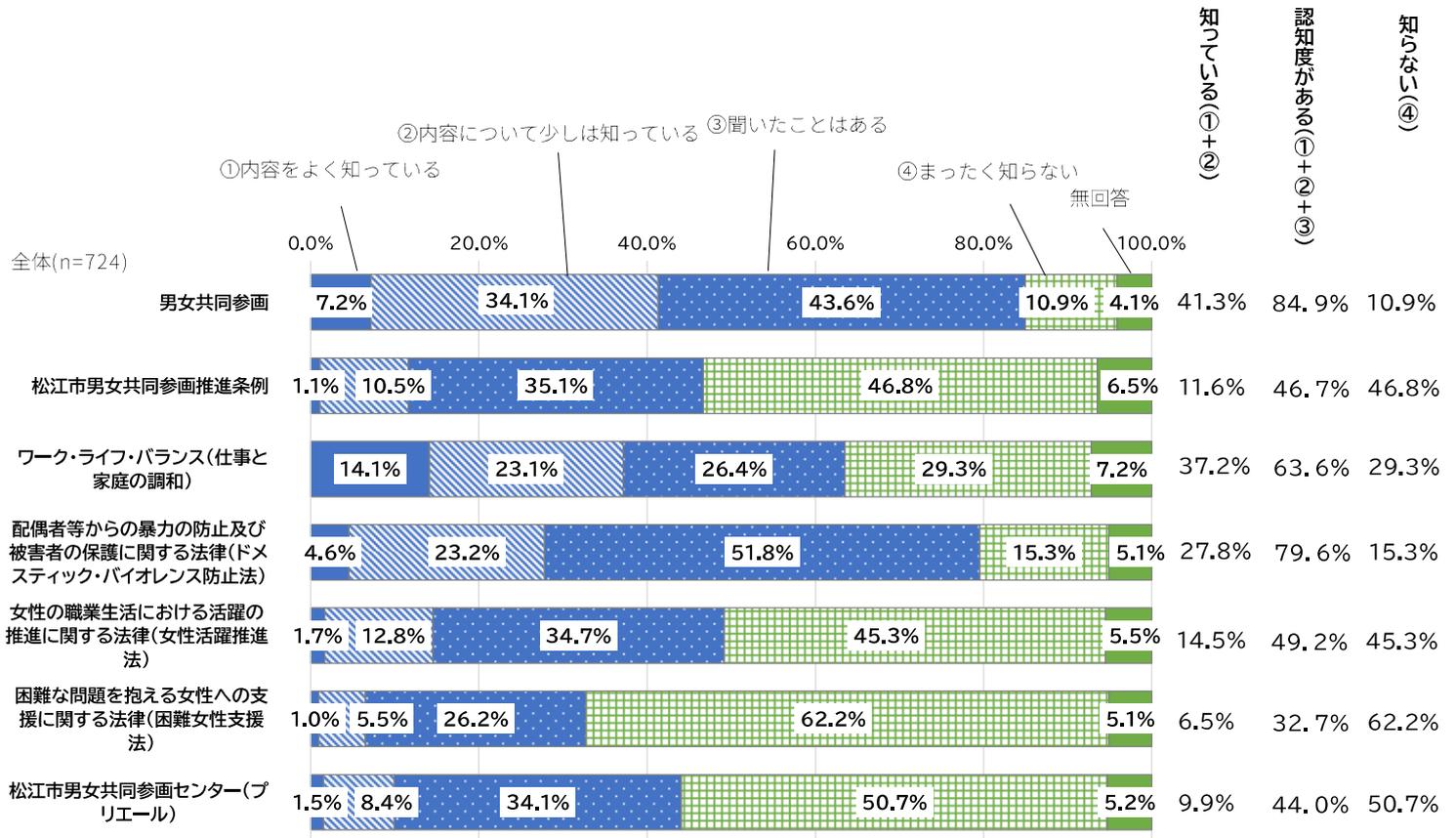
問12 女性に対する暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口の認知度



「警察」(43.6%)が最も高く、次いで「島根県女性相談センター」(25.0%)、「島根県立心と体の相談センター」(14.4%)の順となっている。

10 男女共同参画に関する用語の認知度について

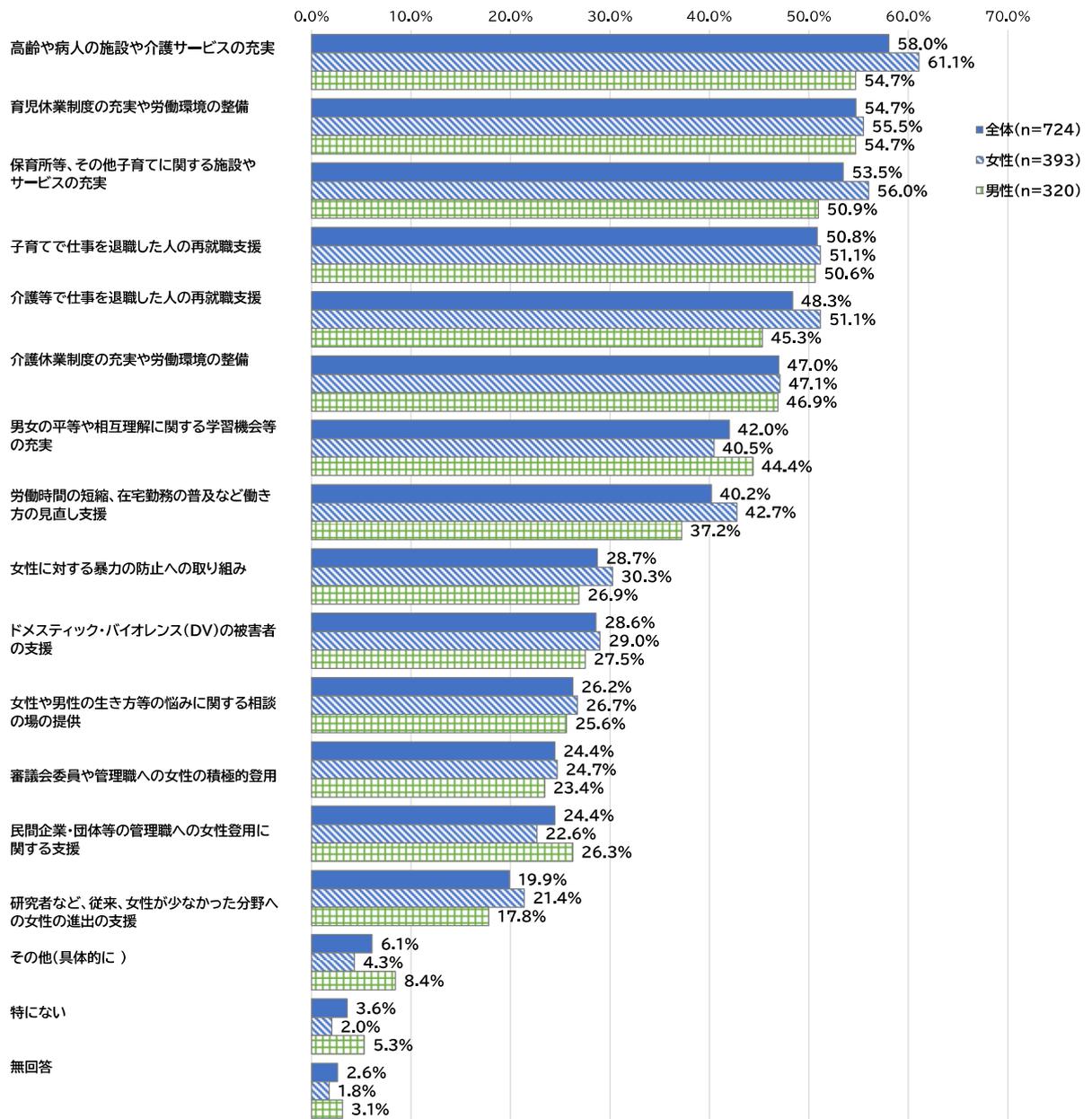
問14 男女共同参画に関する用語の認知度



「知っている」と回答した割合が最も高いのは「男女共同参画」(41.3%)で、次いで「ワーク・ライフ・バランス」(37.2%)、「DV防止法」(27.8%)の順となっている。

11 松江市への要望について

問15 今後、松江市はどのようなことに力を入れていくべきか（複数回答可）



「介護サービスの充実」(58.0%)が最も高く、次いで「育児休業制度の充実・労働環境の整備」(54.7%)、「子育てに関するサービスの充実」(53.5%)、「子育てで仕事を退職した人の再就職支援」(50.8%)、「介護等で仕事を退職した人の再就職支援」(48.3%)の順となっており、育児・介護に関する要望を回答した割合が高くなっている。